

ITUAJより

編集後記

コロナ禍において、日々嬉しくない記録が更新され、世界中が同時に同じ困難に向かうという事態が続いております。生命と経済の両立に向けて懸命に立ち向かって、直面するのは初めての障害ばかり、地球上のすべての場所で、日ごと夜ごと試行錯誤の繰り返しです。

以前からその有効性がうたわれてきたテレワーク、遠隔医療、遠隔教育等も、コロナ到来により導入が拡大されました。そのため、電気通信・情報通信技術サービスのデマンドが大変な勢いで増加しており、それに応えるための対応も、急を要する課題です。

ITUでも、COVID-19対策として、多くの新たなイニシアチブと関連する作業プログラムが実施されました。また、業務の継続性を確保するため、テレワーク、ビデオ会議用のプラットフォーム、職員の安全とセキュリティなど、多くの方略がとられています。ITUホットラインの「COVID-19とITUの活動」、ぜひご一読ください。

ITUジャーナル読者アンケート

アンケートはこちら https://www.ituaj.jp/?page_id=793

編集委員

委員長	亀山 渉	早稲田大学
委員	山口 典史	総務省 国際戦略局
〃	天野 佑基	総務省 国際戦略局
〃	伊藤 未帆	総務省 国際戦略局
〃	棚田 祐司	総務省 総合通信基盤局
〃	中川 拓哉	国立研究開発法人情報通信研究機構
〃	荒木 則幸	日本電信電話株式会社
〃	中山 智美	KDDI株式会社
〃	福本 史郎	ソフトバンク株式会社
〃	熊丸 和宏	日本放送協会
〃	山口 淳郎	一般社団法人日本民間放送連盟
〃	安原 正晴	通信電線線材協会
〃	中兼 晴香	パナソニック株式会社
〃	牧野 真也	三菱電機株式会社
〃	東 充宏	富士通株式会社
〃	飯村 優子	ソニー株式会社
〃	江川 尚志	日本電気株式会社
〃	中平 佳裕	沖電気工業株式会社
〃	小川 健一	株式会社日立製作所
〃	金子 麻衣	一般社団法人情報通信技術委員会
〃	島田 淳一	一般社団法人電波産業会
顧問	齊藤 忠夫	一般社団法人ICT-ISAC
〃	橋本 明	株式会社NTTドコモ
〃	田中 良明	早稲田大学

編集委員より

コロナ必勝法：人間の標準化

日本電気株式会社

えがわ たかし
江川 尚志



新型コロナに対するワクチンの開発が全世界で進められています。西側での実用化に最初にこぎつけたのはファイザーやビオンテックなど、mRNAと呼ばれる遺伝子の一種を使うワクチンです。これには従来と全く違う考え方が一部に導入されています。

従来のワクチンは、何らかの方法（例えばインフルエンザワクチンならニワトリの卵）でウイルス自体、あるいはウイルスの断片を大量に作り、人間に注射していました。

これに対してmRNAを使うワクチンでは、人間自身をウイルスの断片の製造工場として使います。タンパク質の設計図であるmRNAは現在、遺伝子配列情報とアミノ酸ほかの材料を機械に突っ込むと数時間で工業的に作れます。そこでウイルスの、免疫を引き起こす部分のタンパク質の設計図であるmRNAを合成し、注射すると人体のどこか（どこかは分かっていません）の細胞に潜り込み、その細胞はウイルスの断片の製造工場となって大量生産を始めます。そうすると免疫系が反応し、めでたくコロナに対する免疫が獲得できます。

これは遺伝子治療の関連技術です。例えば、鎌状赤血球という遺伝病があります。患者さんにヘモグロビンに関する標準の遺伝子を組み込んでやれば完治することが実証されています。これはほんの一例であり、少なからぬ病気、あるいは患者さんによって薬が効いたり効かなかったりする現象は、患者さんの遺伝子が標準に準拠していないため起きる場合が多いことが分かっています。

mRNAワクチン成功、を聞いて私は小躍りました。遂に我々は人間の遺伝子標準化の強力なツールを手に入れた！これで勝つ！！

……、と標準化屋の私は思うのですが、なぜか皆さん、人間の標準化には反対します。標準化で飯を食っているのに言行不一致です。不誠実です。

（少々盛っていますが、mRNAワクチンにDNAを改変し標準化する能力はありません）

ITUジャーナル

Vol.51 No.2 2021年2月1日発行／毎月1回1日発行

発行人 山川 鉄郎

一般財団法人日本ITU協会

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-17-11

BN御苑ビル5階

TEL.03-5357-7610(代) FAX.03-3356-8170

編集人 岸本淳一、大野かおり、石田直子

編集協力 株式会社クリエイティブ・クルーズ

©著作権所有 一般財団法人日本ITU協会